

多様な活動を知ることができてよかった
他の教会も私たちが困っていることもよくわかった
長浜教会の三田村さんのお話がわかりやすかった
上野教会のお話は具体的で面白かった
奉仕されていることで輝いていることを分かち合えるのはとても良い
ラウダートシの通読の方法を聴いて参考になった
教会に帰って今日の話をもみんなに伝えて考えたい
日本で生活する外国ルーツの子供たちの支援活動に頭が下がる、地道に継続していくことの難しさがある中で頑張っておられる姿に感動した。自分にも何かできるかもしれないという思いが湧き上がった。
東日本大震災被災地支援についての岩本氏の話に感銘を受けた。キリスト教的な姿勢があふれていて伝わる話
福音に照らして個人でも行動できることがある
現場での実体験を話でいただき良かった
外国からの方々のパワーに感心した
関わること、積極性を心に留め生活しなければと感じた
多忙な中、気が重かったが来て良かった、教会内では皆精一杯でいくら誘っても参加してもらえなかったので立場上参加しなくてはならず来た次第
現在進行中の教会共同体の変化や長所短所等をもう少し時間をかけて話して欲しい
教会の中でもすればマイナーになりそうなテーマに各々の方が正直に分かち合ってください、気負わずに取り組んでいくとよいと思った
個別に一人ひとり、自分の今の思いを述べる時間が欲しかった
外国人との関わり方において参考になった「喜びのうちに楽しく活動されている」と聞いて継続の秘訣だと思った
それぞれがいこくの方々と接し方に、その方が立つ位置によって活動が楽しみになったり、その方のやりがいに変化したりすること、だれもやらされているとおいう思いを持っておられなかったことがわかった
継続の大切さと大変さがそれぞれにあって、どれだけの人と共に活動できるかが重要だと思う
学校で習う以外のことがたくさん知れて良かった
先入観を持たないことが大切だと感じた
いのちBの参加を希望していたが③平和に入れられてしまったので仕方ないと思いましたが、とてもよいグループに配置していただき感謝。憲法の件も、済州の件も新たに思いめぐらす機会となった。部落差別の件も同様。
実際の活動で学ぶことが大切であり、体験が必要だと思った
社会の問題を教会の中で話せる雰囲気になることはよい
それぞれの活動は「神様から呼ばれている」「楽しいからやっている」「支援は指導ではない」「子供たちのために良き土となる」という信仰に基づいた活動だということ強く感じた
発表者がよく準備していて、分かり易く説明してくれた
普段避けている問題をテーマとしている分科会に配置されたことによって、改めて向き合うことになり大変良かった。
小さな教区で同じことを言っているばかりでは前進することができないことを痛感。高校生の参加は特に良かった。
これから担っていくくれる若い人が真剣に考えて体験することは大事。
教区としてこのような集いをもたられたいのは初めてで有意義。ここに活動されていることは素晴らしいし、年一回くらいのペースでこのような交換会があると良い。
長浜教会の三田村さんのお話がわかりやすかった活動は手伝えるものなら直ぐに行きたいと思った。このような活動に携われる方のように、私も何かを見つめようと思う。
継続は力であり、いかに長く続けられるかどこまで期待するかをもう一度考えたい
日頃なんとなく見過ごしていた問題を深く考える機会をいただいた
学習すること、行動することが大切だと改めて思った
原発には関心があるが、身近ではないので新聞で読む程度。東日本の現状を知ることができた。表面的にはわからないことでも深く知ることによって考えて行動してみたい。
全信徒と共有したい
他教会の外国人の方が占める割合など参考になった。外国の方が教会を支える存在になっていることを知った。
いろいろな話が聞けて良かった。根っこは一つ「福音の視点から」というのが皆さんの共通の視点だったと思う。教会での取り組みにも力が入る良い機会だった。
分科会の前に「何をしたかではなく、どのような思いで、ということ語っていただきたい」と柳本神父が言われたので期待したが、活動の事実的な羅列が多く、現実を把握するための新しい視点は得られなかった。一般的な内容に終始したように思う。
若い世代の方の発表もあり、反面うらやましかった
高齢化の中で若い外国人たちとの関わりがとても重要と認識した
現場で活動されている方の生の声を聞き、安穩と暮らしている自分の毎日を見直さなければと感じた。何度も意識して生きていきたいと思いながら、一步を踏み出せないで、まずは意識することが大切と逃げ道を作っている。
平和についての思いだけでなく、実践できることがまだまだあることに気付かされた
ラウダートシの読書会等、すぐにも取り入れられるのではと参考になった
環境という定義を知ることが大切。大きな話ではなく小教区で小さいことから始めることが大切。
小教区でも、ブロックでもこのような集いをしたいと思った
横のつながりの中での発表だったので教会共同体の人たちの目線を感じるすることができた。いろいろな活動をされていることを感じ、励みになった。この社会の中で人間としての歩みに確信を持ちたい。みことばと一緒に生活の中でコミュニティという言葉に日本というものを背負って活動されている皆さんの苦勞を感じた。どこの教会も年配の信徒から子供へどうやってつなげていくのかということで悩んでいる状況が切実に伝わってきた。
教会内でやることには評議会の承認があるので、個別に活動している方のお話を聞けて良かった
三人の方の発表の関連がなく、小テーマ毎の発表という感じだった
人に寄り添うとか、人との関わりの大切さを中心に聞けて良かった

各発言者の方々は本当によく分かり易く話してくれた。何も難しく考えないで素直に考えることの大切さを知った。当日受付で、当初興味のない分科会出席であったが、活動者の話を聞く、知ることはとても良かった。それぞれの活動への理解につながると思う。

皆さんの発言に現実感あり。日本人の精神史が潜んでいる闇を改めて感じ、私たちは何をどう克服していかなければならないのか考えさせられた。私たちは実を取るに足らない人間(存在)であるかということ。人間は人間を殺していくことで「生」を「いのち」の重さを知ろうとする悲しい存在である。未来私たちは「戦争」に本当に加担していないと叫ぶことができるだろうか。

今後「いのち・平和・環境委員会」で企画してほしいテーマ・内容

障害の方について
外国人信徒との共同体づくり・外国人に日本人との教会共同体づくり
外国人とのつながりの中でどうしても、日本の教会に合わせていくという形以外の支援をさぐる方法
外国人労働者の実態
中国のカトリック交流を学ぶ機会
格差
情報(スマホと子供たち)
子供
若者
いじめ
貧困
環境浄化
難民
原発
被災者
同性婚・LGBT
フランシスコ教皇様の講和について
病や死につて(死生観)をどのように伝えればよいか
沖縄・福島の現状(ニュースの情報をいかに捉えるか)
どこかの教会で取り組みの事例と見学・富雄教会
憲法改正と平和

開催日時(曜日や時間帯)、場所について

土曜日(このままで良い) (16名)
土曜午前 (3名)
金曜日 (1名)
日曜日 (2名)
もう少し早い時間 (6名)
秋か春(暑くなく、寒くない時期) (2名)
京都市内ばかりでなく京都北部 (1名)
ブロックごとにしてもらえると参加しやすい (1名)
河原町教会 (2名)

その他、ご意見・ご要望

分科会では体験的な話が聞けて参考になったが、教区としてこれからこの集い「いのち・平和・環境の日」委員会・部会をどう発展させてら良いのか指針が見えてこない。その方向性を早めに示してもらわないと、各ブロック・各教区での部の在り方がはっきりしない。

他の分科会の様子も知りたいのでまた企画して欲しい
分科会よりも、テーマ全体を一緒にして欲しかった
京都教区の基本方針を年頭に出して欲しい。その際、小教区でのテーマや具体的目標を示して欲しい。
席は円形になるほうが話をしやすい、前を向いているとお互いの顔が見えない
毎年開催して欲しい
私は「聖アンデレ福音宣教研修会」を約10年させていただいているが、福音宣教(のテーマ)で、含めてこのような場で分かち合いをさせてもらいたい
分科会だけでなく、全体会で各分科会の要約を聞きたい
カトリック教会として「社会とこのように関わっている」ということを外部の人々に発信する催しがあると良い。内々での研修会が多いように感じる。
グループの人数が多い。もう少し少なくして全員が発言できるようにしたら良い。
分かち合いの時間が持てれば良い
次世代の若い人たちにもたくさん参加してもらえる機会を作って欲しい(他1名)
マイクの音声聞き取りにくいところがあり残念(他2名)。ディスカッションがあるとよい。
小教区では単位が少数なので、ブロック単位で学習や活動するほうが充実すると思う
テーマが広すぎるのでしぼって欲しい
もう少し若年の方々の参加を希望、そのためには担当司祭からのアピールが必要
担当の神父様が質問者へマイクを回したり、とても大変そうだったので、補助の信徒がいれば進行に専念していただけたと思う